

自然の色を感じ、見つけよう。

開催レポート



風が心地よく、お天気も散策にちょうど良い5月24日。自然界の色を感じて発見しよう！というワークショップを開催しました。

明治神宮さんご協力の下、とても素晴らしく有意義な内容でした。いつもそこにある明治神宮ですが、参加者の皆様からは「へー」「ほう」「ふんふん」…と、驚き・感心・感動のオノマトペが途切れることなく聞こえてきました。参加者の皆様が各々の発見を持って帰られたと確信しています。

事務局の個人的な感想は、杜の存在と深さや明治神宮をお守りする皆様の表情や温かさや接し、「人として豊かである」「人として深くある」「人として自然である」…そんなことを木々から差し込む光や葉の間を通してきた瑞々しい風を感じながら改めて考えたのでした。



特別講師 高島信一郎氏

明治神宮 権禰宜
人望が厚く、頼もしくわかりやすく楽しく、参加者が五感をフルに使いながら自然を感じられるようにナビゲートして下さいました。ありがとうございました！

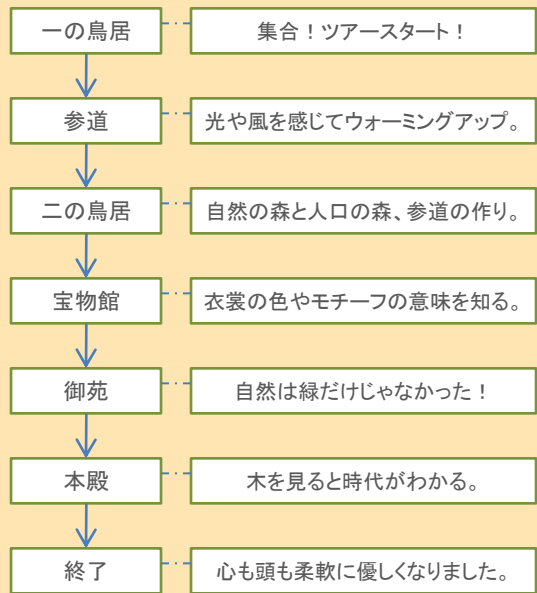
仙石宗久氏

衣裳・装束の第一人者。現在、源氏物語の十二単を再現中。今も美しい装束として残る十二単。但し、その重さはただものではない！お洒落はガマン！とも言うが、こんなに不便な点がある物が美しい物として今に残るはずがない!!!という考えの下、当時の織物の謎解きを始められた。まずは糸から作り、染料・工程を含め忠実に再現を試みたが、糸を再現するにも、古代のDNAを持つ蚕がいない。ではまず蚕を…。…とてもロマンがあってわくわくする試みをされている仙石氏。そんな中、ある国の蚕と出会い、その蚕が作った絹糸は細く丈夫で染めも美しい。更にその糸で作った反物は月の明かりの下に浮かび上がるとか。途上国の蚕ということもあり、もしかしたら当時の日本の蚕も近いDNAであったのでは？日本人の美意識を改めて思うお話をおうかがいしました。そのほかに文様の意味、鳳凰は何を食べて生きているか？などなど…お話は尽きない貴重な時間でした。



沖沢幸二氏

明治神宮の杜を守るスペシャリスト。かきつばた・アヤメ・花菖蒲。実はみんな別の花。見分け方を伝授していただきました。また、杜にはさまざまな木々が命をはぐくみ、豊かな自然を私たちに与えてくれています。昔の人々は自然界の息吹や季節毎に現れる現象などに見る美しい色に憧れ、何通りもの色の組み合わせで表現しました。いまもかさねの色としてその美は継承されています。また、神宮の杜には自然を育てるため、人と自然の共存のための工夫がたくさんありました。たとえば本殿前の大楠。たくさんの方が大楠の下に集まっても根が踏まれないようにと、二重の床になっているのです。決して「立ち入るべからず」ではなく、大楠と人がコミュニケーションをとれる環境を作ってくださったことに懐の深さを感じました。自然は時には厳しいものですが、沖沢さんが杜をスイスイと進む足取りはとても“自然”で素敵でした！



特にオトナは時間にゆとりを持って改めて訪れることをお勧めします。井戸だけじゃなく、きっとこの土地すべてがパワースポット。カチコチの頭と心が柔らかくなっていいアイディアがひらめくはず！ ご協力くださった皆様、参加者の皆様、ありがとうございました！

JAFCA COLOR CLUB事務局

2010年5月24日開催 参加者15名

みんな上をみてる！
何があるのかな？



うわさの
清正井

